

President's Message  
October 1993

# 四つのテストを試みる

これは効果抜群です

R I 会長  
ロバート R. バース

Robert R. Barth  
President, R.I.

1954-55年度のR I 会長だったハーバート J. テーラー氏が「四つのテスト」をつくりだしたことにまつわる話は、あまりにも何度も繰り返し語られてきたので、いまでは忘れられることのないロータリーの神話みたいになっています。しかし、そうなってしまったことが問題なのではないでしょうか。

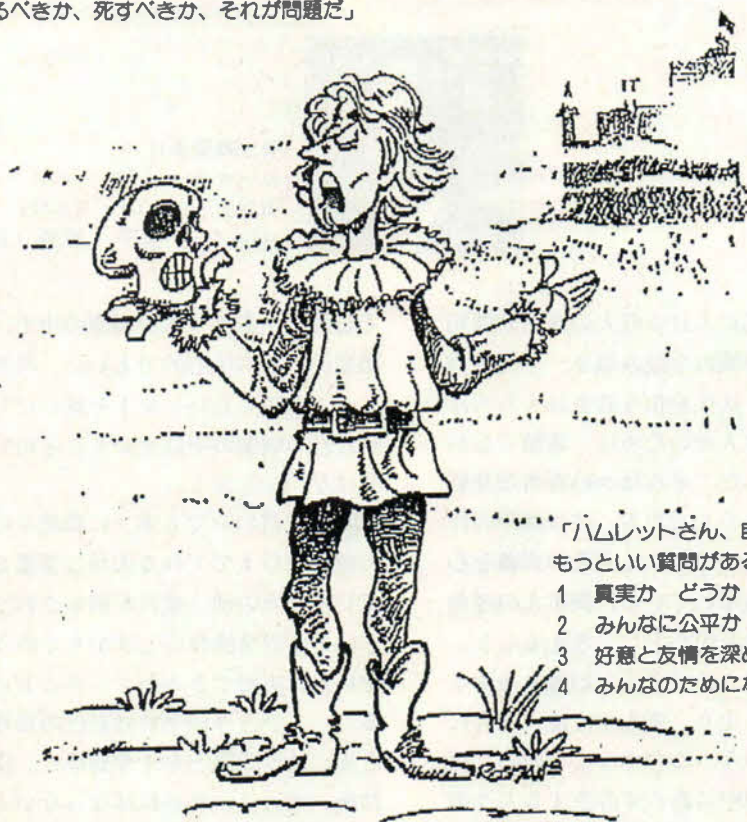
アメリカ・イリノイ州シカゴのビジネスマンだったハーバート・テーラー氏が1932年に、自分の会社クラブ・アルミニウム製品株式会社を破産から救おうと悪戦苦闘していたことは、私たちだれもが聞いて知っています。そのときテーラー氏は、新しい販売戦略を思いついたのだったのでしょうか？あるいは新製品を開発したのだったのでしょうか？それとも現金でのリベートを出すことにしたのだったのでしょうか？

いずれも答えはノーです。祈りと熟考を重ねて、テーラー氏は24語からなる簡潔な行動基準をつくり、これをクラブ・アルミニウム社の社員全員が遵守することにしました。

このような簡潔ですが実際的な指針にのってすべての企業活動を行えば、クラブ・アルミニウム社は一般消費者への対応を誤ることはないはずだ、とテーラー氏は考えたのでした。テーラー氏の考えは当を得たものでした。会社は苦境を脱し、繁栄しました。

1943年、ロータリーは「四つのテスト」を採用し、テーラー氏は会長としてこのテストの普及に大いに努力しました。今日では、四つのテスト協会の努力によって、「四つのテスト」は、「ロータリーの綱領」や「奉仕の四つの道」と同様に、R I という組織と不可分に

「生きながらえるべきか、死すべきか、それが問題だ」



「ハムレットさん、自分に問いかけるのなら、  
もつといい質問があるよ——

- 1 眞実か どうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるか どうか」

なっています。

しかしながら、多くのロータリアンにとって「四つのテスト」はロータリーの神話の一部にすぎない——右の耳から入って左の耳から抜けていく類の情報の一つにすぎないのではないかと、私は危惧しています。

私の友人であるロータリアンのみなさん、どうかこの素朴な英知を無視しないでいただきたい。「四つのテスト」は今日でも、倫理に照らして自らの行動を判断する際の非常に貴重な尺度で、私たちを困惑させることが多い

今日の世界にも適用できます。「四つのテスト」を指針として活用することで私たち全員が、よりよい人間に、よりよい市民に、よりよい職業人に（そうです、よりよい職業人になのです）、そしてよりよいロータリアンになることができるのです。

「行動に信念を——・・・信念は行動に——・・・」、そして「四つのテスト」を試みてください。

それでは、今月はこれで失礼します。

(RI指定記事)

# 職業奉仕に思う



RI 職業奉仕/  
ロータリーボランティア  
実行グループ(アジア地域)  
メンバー 金子 雅英(岩 槻)

17世紀、江戸時代における町人の商業勃興期ぼっこうに当たって、経済の流れを読み取り、その内容を克明に分析して、次代を担う若者はもちろんのこと、商業に志す人々のために、素晴らしい教訓を残した人がいた。それはかの有名な井原西鶴(1642~93)その人である。彼は晩年の作かつとうの中で金銭にまつわって起こる善悪の葛藤を心憎いまでに描写し追求している。商業人の運命を左右する経済生活を中心として考えるとき、純粋に生まれてきた人間が金銭に影響を及ぼされると善人が悪へと走り、悪人でも逆に善人に戻ることもあるという。このように人間の二面性をとらえて、その中であって苦渋する人々の生きざまと、移り変わりを真剣に訴えていることに、私は心を揺るがされたのである。

彼は職業から得られる金銭に対しては、あくまでもその価値を認めながらも、その過程の中で少しでも人道に恥じる部分があるときには、やがては没落の憂き目に遭うという多くの実例を示している。その中で「人の人たる人」のみが正道を生きていける人であるといっているが、このことは、その人にとっても容易ならざる一大事であると説いている。すべての欲を抑えて耐え忍ぶことが成功につながる基本であるとし、特に、忍の字については、心の上に常に刃が覆い被っていて、いつも心が正しく泰然自若としていなければ刃によって心が傷つけられてしまうという興味ある名言を残している。まさにその通りであると思う。ロータリーでいう職業奉仕職業奉仕も、そこに端を発して尊敬に値する職業の内容であれと願い、品位の向上を強調している。

そして、一業種一人の組織の中で、もし、他の職業の中から唯心的でもいい、唯物的でもいい、一つの素晴らしいヒントを見いだし、そのことが自己の職業の中に生かすことができれば最高ではないかと思う。

職業宣言の中でも第一に職業そのものが奉仕の機会を与えてくれる大切な要素であるといっている。その他、項目が列挙されているが当然といえば皆当然のことばかりである。ただ、それをいかに実行できるかということにかかっている。一人ひとりの会員は自己の責務とクラブとともに負う責務とを十分認識し、深く語り合った後、実行されなければならないことと思う。そして社会のニーズに最も適合した職業奉仕活動の輪を広げてゆくべきである。そのためには、ロータリーはもちろんのこと、広く一般社会にとけ込んで情報を収集し検討することが大切であり、机上の空論に終わらせず、若い会員の意見を十分聞き、それを計画の中に取り入れられれば、老・若・混然とした素晴らしいプロジェクトが実行できると思う。職業宣言の巻頭において「事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請にこたえんとするものである」と明記されている。この大切な心構えともいうべき字句が見落とされている場合が多い。三百有余年前にロータリーの精神と同じ考えを持った人がいたことはわれわれに大きな力と誇りを与えるものである。と同時に、その誇りはわれわれの生命であるといっても過言ではない、と思っているのは私一人ではないと思う。

第2770地区(埼玉県)PG

# 技術革新と雇用環境の変化



R I 出版物委員会委員  
R I 会長情報カウンセラー  
岡村 俊一 (鹿児島)

1987年 R I 職業奉仕委員会が40年ぶりに招集されて、近年急速に発展した新技術によって大きく変化した職業社会、特に雇用環境の変動に対応する奉仕部門の再定義を理事会に答申して、「<sup>※</sup>職業奉仕における新方針」が採択されました。新方針は新委員会機構を創設し、また職業奉仕が「クラブと会員双方の責務である」と明記しました。4小委員会の設置が奨励されていますが特に雇用対策について具体例も列記されています。この新方針の背景となっている新技術の発展と雇用環境の変化を失業率の変遷で見ますと下表のようになります。

産業革命以来続いた技術の進歩は1950年代から1970年代にかけて重化学工業のエネルギー多消費型の職業社会の繁栄によって先進工業国の雇用は安定して失業率もおおむね低い水準で推移しましたが、一方地球環境破壊の主因の一つとなりました。1970年代後半から始まったME化(コンピューターに代表される電子技術の応用)は第2次産業革命ともいわれる産業構造の

大きな変革をもたらしましたが同時に雇用環境に大きな影響を与えました。特に省力自動化によって、従来の未熟練から熟練労働者に至る雇用秩序が崩壊して、新技術に適應する雇用条件に変化して大量の失業者が出ました。加えて欧米の雇用慣行によって新技術にマッチしない若年労働者(24歳以下)を中心とする失業率は平均の2倍以上にもなって社会不安の要因となりました。そのため職業訓練、就業のミスマッチの解消等の処置が急務となりました。R Iの新方針もその対応にそったものです。日本では雇用安定の諸法制度と企業内の対応によって低い失業率が維持されていますが、若年者にかわって、高齢者の問題がありますので、新方針の適用には考慮が必要です。

一方1990年以來の東側経済の崩壊に続く世界的な不況はホワイトカラーにも及ぶ雇用不安となっています。同時に次世代に続く職業社会で魅力のあるロータリーのあり方を考える必要もあると思います。 第2730地区(鹿児島県・宮崎県)PG

産業構造の変革とOECD諸国の失業率の推移(単位%)

93年は推定値、( )は24歳以下の若年の失業率

OECD全体	重化学工業の進展										ME化の進展								東側経済の破綻		
	1959	64	69	73	75	79	83	85	86	87	88	89	90	91	92	93					
アメリカ	5.3	5.0	3.4	4.8	8.3	5.8	9.6	7.1	7.0 (14.5)	6.2 (13.3)	5.5	5.3	5.5 (12.2)	6.7 (14.7)	7.4 (15.6)	[7.3]					
イギリス	2.7	2.4	3.0	3.2	4.5	4.5 (10.8)	11.3 (21.8)	11.7	11.8	10.4 (16.6)	8.1	6.2	5.9	8.3	10.1	[10.8]					
フランス	1.7	1.3	2.2	2.6	4.1 男子	6.0 (10.2)	8.4 (17.0)	10.2 (24.5)	10.5 (22.8)	10.6 (20.7)	10.2 (20.3)	9.4	9.0 (12.8)	9.8 (14.5)	10.3 (15.7)	[10.8]					
イタリア	7.0	4.3	5.7	6.4	5.9	7.2	9.2	9.6	10.3	11.0 (35.5)	12.0 (34.5)	12.1 (33.6)	11.1 (31.5)	11.0 (30.8)	11.0	[11.3]					
西ドイツ	2.0	0.4	0.6	0.7	4.1	3.3 (4.3)	9.1 (11.5)	9.3 (10.2)	9.0 (9.0)	8.9 (8.3)	8.7	7.9	7.2 ドイツ	6.2	6.7	7.6	[8.3]				
日本	2.3	1.2	1.1	1.3	1.9	2.1	2.6	2.6	2.8	2.9	2.5	2.3	2.1	2.1	2.2	2.2	[2.3]				

海外労働白書 平成元年版-平成5年版、先進諸国の労使関係(日本労働協会)より

## 環境保全と職業奉仕 事例

環境保全関連の職業奉仕の事例を、前年度のガバナー事務所に集めていただきました。

クラブで実施したもの、また、空きカンや牛乳パック、トレイ、紙のリサイクル、

再生紙の使用、植樹など、多くのクラブ会員が実施されている重複する活動は省略しました。1991年10月号、10～19ページ、1992年10月号、10～15ページも併せてご覧ください。

§クラブ名 氏名 ( ) 内は職業分類

70%以上を古紙使用

§名寄 坂東正美 (製紙業)

段ボール原紙、雑板紙を年間22万トン製造しているが、その70%以上を古紙使用 (日本の古紙利用率は52%弱、世界では約35%)。パルプ自製過程で出る廃液は全部回収し、濃縮、燃焼、再生のリサイクル技術を確立した。また、CO<sub>2</sub>排出低減とSO<sub>x</sub>もスクラバーで吸収し、対策も万全である。

§士別 近井晃太郎 (原木販売)

道、国の助成を得て長期 (3～25年) にわたる植林、育林を図っている。

§下川 平 肇 (伐採)

営林署の指導のもと、伐採木よりも植林した木の方が多いほど造林に力を入れている。

WWFに加盟して

§函館 加藤健太郎 (土木工事)

建設業という「開発する側、自然破壊の共犯者」と見られがち、そこで「一地球市民」との観点から全社を挙げてエコロジー&リサイクル運動に取り組んでいる。その第一歩として、一昨年12月にWWF (世界自然保護基金) に法人会員として加盟し「HELP! CRIES THE EARTH」を会社の統一テーマにした。ステッカ

ーやバッジを作り、社員の意識向上を図っている。

§秋田南 田村典美 (土木技術)

コンクリート、アスファルトガラなど多量に発生する工事現場に廃材解破機を導入し、碎石40-0クラスに匹敵する骨材として再生採取、道路や宅地、駐車場の敷石に活用している。これにより廃棄物の減量化と資源の再生利用に貢献。

クリーン&グリーンキャンペーン

§青森 大野清隆 (自動車整備修理)

過去18年間、毎年、世界の花木を県に寄贈。会社の創立記念日に県内各支社の社員 (330人) が道路清掃、空きカンやゴミ拾いを実施 (18年間継続中)。これを「クリーン&グリーン」キャンペーンと命名した。

§八戸中央 畠山英一 (生花配布)

生花業の立場から地域の緑化運動に協力中。

§青森南 相馬完志 (タイヤ配布)

使用済み古タイヤの処理方法について各業界間のルート作りの確立を図る。

§青森南 川村義悦 (損害保険)

積立保険の一部をお客様から、また、その同額を住友海上火災から出費し、WWF (世界自然保護基金) に寄付している。

### 農業の使用少なく

#### §黒羽 三沢晃彦（ゴルフ場）

農薬の使用を極力少なくし、環境に敏感な小鳥を育成するため、多数の巣箱を設置、観察と育成に取り組んでいる。

#### §東京新宿 松田 洋（貴金属精錬）

電子・半導体業界、自動車触媒染界からの貴金属資源リサイクル事業。写真感光材料からの銀資源リサイクルと、そこに発生する液状産業廃棄物の無害化処理。各メーカーから発生する油状の産業廃棄物を鉱山会社で安全処理する収集運搬業など。

#### §東京荒川 栗原正雄（製紙原料配布）

再生資源として持ち出せない機密文書は保管場所内で溶解し、合成樹脂製品に代わる緩衝材製品を製造。

#### §東京東 鈴木一末（貨物自動車）

公害防止策として、遠赤外線の放射エネルギーをもって①スモークの軽減、②NO<sub>x</sub>の軽減、③CO<sub>2</sub>の軽減、④燃料節約装置を自社車輛に装備しテスト中。

#### §東京江戸川 田口英雄（紙器製造）

古紙を最も多く含んだコードボールを主材料に使用し、塩ビ、発泡スチロールなどの緩衝材を段ボール、板紙などに転換している。紙箱全

体のスリム化に努力中。

### ハナモモ照手姫の普及

#### §相模原 安藤和次郎（地方銀行）

東京狛江多摩川RC所属時代から、観賞用の「ハナモモ照手姫」の普及に尽力。銀行ロビーでの展示はもとより、地元の商店街や地域のイベント時にハナモモを寄贈したり、地域住民を集めて園芸教室も開催。

#### §東京飛火野 渡辺健雄（精肉販売）

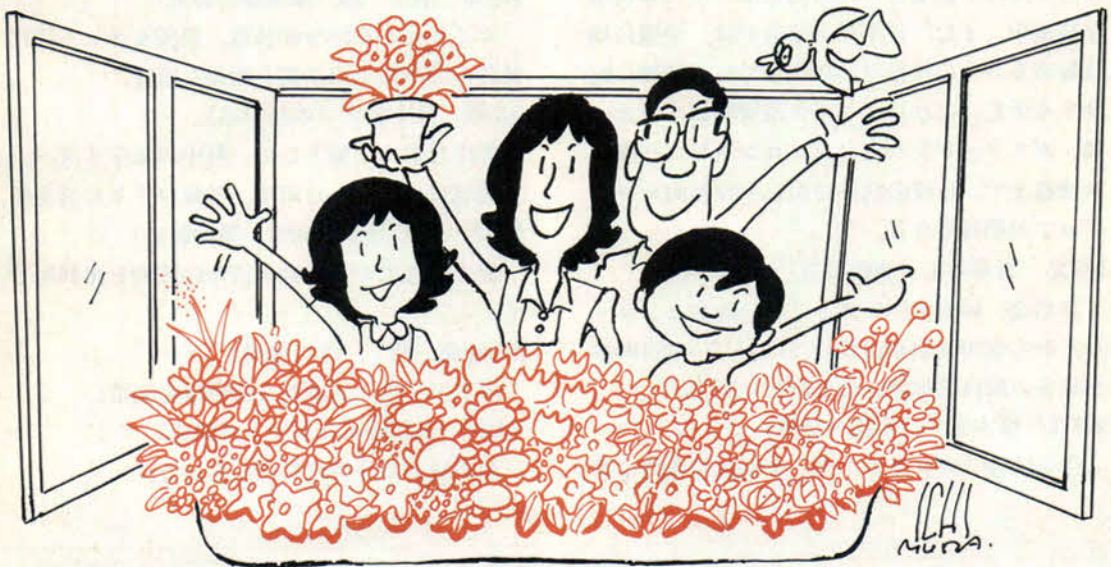
精肉販売業とトンカツ処の営業を通じて、「ビニール袋をなるべく使わない運動」、袋の要らないお客様は5円値引き、「割り箸を使わない運動」などを進めている。

#### §東京飛火野 中村善一（動物解説）

多摩動物園の動物相談員の立場から「小鳥の巣箱の配布運動」を支援中。

#### §東京羽田 松波直秀、谷島 利（ポンプ製造）

3つの工場で洗浄用特定フロン、トリクロロエタンの使用を全廃、水系洗浄に切り替えオゾン層の保護を、また、自社製流動床焼却炉を設置し、産業廃棄物の自社内処理を実施。従業員と家族を対象に環境保全についての社内ボランティア活動を展開（クリーンハイキングや不用品の交換会・リサイクル広場など）。



### 最良の選択と合意を目指して

§東京新南 鈴木重徳（コンクリート建築）

カナダ太平洋岸で、ゴルフ場、マリーナ、住宅地の複合開発を推進しているが、「自然との共生」「荒れた自然の再生」をテーマに各種の工事を施工中。地元の自治体、環境保護団体との徹底的な話し合い、最良の選択と合意を目指している。例えば、近自然工法の応用、土壌微生物の活性化を促すBMW（バクテリア、ミネラル、ウォーター）システムを導入、かんがい用水、下水処理に利用するなど。

§東京立川 草野忠正（建築材料）

毎週火曜日の朝2時間、支店とも全社員で事業所近辺の清掃を行っている。

§小矢部中 前島修市（寝具配布）ほか

「停車中はエンジンを止めよう」のステッカーを作り、クラブ全員の事業所の車につけ、市民にも配布し、大気汚染防止運動を展開中。

### ガスによる冷房を

§静岡中央 吉永勝也（ガス供給）

都市ガスは使い方によっては、経済的で、クリーンで、効率のよいエネルギー。夏の冷房需要の増加で電力はパンク状態。その点、夏はガスの需要が少ないので、省エネのために工業用需要の開拓、新築ビルの冷暖房用にガスの利用を推進中。また、日本ガス協会では、全国に13種類あるガスの種類を2010年までに1種類に統合する予定。これによりガス消費機器メーカーは、ガスタービンからノンフロン空調、一般ガス機器まで、仕様の統一が図れ、技術的レベルアップが期待できる。

§可児 酒井善生（油脂製造）

自治会、婦人会、レストラン、給食センターなどから食用廃油を回収し、月にドラム缶100本を家畜の飼料添加剤として商社に販売。

§鯖江 橋本亮二（米農・林業）

化石植物「メタセコイヤ」を現代の森林に育

てようと推進中。成長力豊かな落葉樹で豪雪、台風にも強く、環境保全に役立つ。

### 砂漠緑化に現地で指導

§鳥取西 松田昭美（砂丘研究）・赤木三郎（教育—地学）

砂漠緑化の基礎的な研究に取り組み、中国の現地で指導に当たっている。

§鳥取西 岸本 潤（教育—林産学）

広葉樹文化協会を設立し、よい自然（雑木林）を増やす活動に取り組み、浜本真一（園芸）が同協会を支援、協力中。

§倉敷東 羽原良行（環境調査）

環境分析の重要性が高まり、依頼件数が増加している。精度の高いデータを出すため、学術、技術の向上に取り組んでいる。

§岡山東 千葉喬三（環境学教育）

国、地方自治体などの大規模事業について、環境アセスメントや各種検討委員会で指導するほか多方面で講師として活躍中。

§福山東 鍋島孝宏（スーパー）

トレーの回収箱を設置、交換商品券を発行し回収効果を上げている。

### 環境保全用機器を開発

§因島 木村 昂（機械器具製造）

ダイオキシン熱分解装置、飛灰セメント固化装置の環境保全用機器を開発し販売。

§高鍋 黒木敏之（焼酎製造）

町中にある工場として、町中の森をイメージし地域にマッチした環境、景観づくりに努力中。

§長崎 宮崎達雄（味噌、醤油製造）

従来は捨てていた抽出済みの麩節を再利用している。

§長崎北 西 淳（金属）

廃アルミ箔、古紙から断熱材を製造。

§大村 永島敏明（ブロック製造）

おが屑の活性炭化を図っている。